



1. 活動日時：2015年1月24日（土） 10:00～15:00

2. 参加者：7名（社友GS 5名 現役GS 2名（金井さん・田平さん））

3. 活動内容

- ・今回は、10日のSGC活動の後を受け、沢筋の植栽地の間伐に取組みました。
- ・香遠さんと小林さんが自前のチェーンソーを持ってこられたので、間伐作業は楽に進められましたが、伐った木を杭・薪・粗朶に転用する為の処理作業も並行して進めましたので、間伐そのものは残念ながらエリア全体の1/4程度にとどまっています。
- ・しかしその分、薪を保存する薪置き場の修復も出来ましたし、薪の積み替えも済ませることが出来ました。今後の活動の為に大収穫です。
- ・活動頂いた7名のGSの皆さん、お疲れ様でした。

4. 次回以降の活動

- ・2月14日（土）のSGC活動では、竹灯籠作りに取り組みます。
- ・間伐は、単に樹間だけではなく、目標にしている「フクロウの棲む森」を想定して進める必要があり、やはりその視点から専門家の指導を得たほうが良さそうです。

■沢筋の植栽の間伐。

久しぶりにチェーンソーが活躍しました。



木を選別して・・・



伐採し・・・



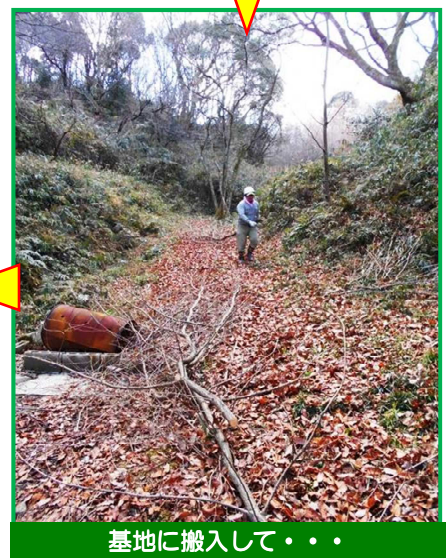
搬出に邪魔な枝を切り取り・・・



薪のサイズに断裁して完了です。



更に細い枝を切り取り・・・



基地に搬入して・・・

- ・フクロウが棲む環境とは、その餌となるネズミ類やモグラ等の小型哺乳類、シジュウカラ等の小型鳥類、カエルやトカゲなどの両生爬虫類、ムカデ、カブトムシ等の大型の昆虫類などが棲んでいるということですし、更にそれらの餌となる植物等が生育している環境のことを言います。
- ・植栽地の植物は、クヌギ・コナラ・ヤマザクラですから、フクロウを済ませる為には、自然林を含め、整備しないといけないことはまだまだ沢山ありそうです。奥が深いですね。



新しい薪の山を前に一枚。 門松の竹は、灯笼に生まれ変わります。



カマドではシチュー作りと湯沸し進行中。

- 柳田國男が、東野物語の中で「美しい村など始めからあった訳ではない。美しく暮らそうという村人がいて、美しい村になったのである。」と書いていますが、「村」を「里山」に置き換えると意味がよく解ります。
- 里山での薪・炭の生活が電気・ガスにとって代わられてから、薪や炭で煮炊きすることは無くなりました。
- それに伴い、美しかった里山も荒廃して行ったのはよく知られています。
- しかし今、その里山は自然と共生する社会のシンボルとして世界から注目され、"SATOYAMA"は、自然共生社会実現のグローバルキーワードになっています。
- 神於山の自然再生活動は、その里山再生が本来の目的です。
- 神於山シャープの森の育林活動も終盤の間伐期に入りましたから、そろそろ本来の目的である「自然と共生していることを体験する"場"」の実現に向け、活動のステージを一段上げる時期に来ています。
- 「フクロウの棲む森づくり」はそのシンボリックな活動ですが、今、冬の暖取りに、防火上の観点から利用している内燃タイプのカマドで湯沸しやちょっとした煮炊きをしているのを一歩進め、次回からヤカンでは無く釜で湯を沸かしたり、ご飯を炊こうと言う話が出ています。
- 既にシイタケの榎木栽培は手がけていますが、間伐したヤマザクラを細かくチップにして燻製を作ろうと言う方も出てきました。
- 神於山シャープの森のあちこちに生えているお茶の木からお茶を作ろうと言う話も出ています。
- その他色々。正に"新しい里山のお楽しみはこれから！"です。



薪置き場の修繕

- 切った薪は薪置き場に積み、乾かしますが、その前に薪置き場を修繕しました。
- そろそろ屋根の葺き替えが必要になっています。



薪の収納完了。新しい薪は下に、古い薪は上に積み替えています。